

出雲平野で越冬する

大型水鳥3種（マガン・ヒシクイ・コハクチョウ）の採食分布

森 茂晃（ホシザキ野生生物研究所）

宍道湖や中海，その周辺部は，大型の水鳥であるガン類やハクチョウ類が越冬する地域である．まとまった群れが見られるのは，マガン，ヒシクイ，コハクチョウの3種であり，昨シーズンの宍道湖とその周辺では，越冬期間中の最も多いカウント数で，マガン約2,300羽，ヒシクイ約170羽，コハクチョウ約500羽を数えている．

毎年，これらの大型の水鳥が集団越冬している地域は全国的にも限られ，ねぐらあるいは採食などに利用する場所は，さらに限られた範囲である．当地において，その場所や範囲を示すことができる情報は，観察記録やカウント調査などからもかなり蓄積されてきていると思われる．しかし，それらを長期にわたってモニタリングし，経年あるいは越冬期間中の変化の有無などについて比較検討できるような調査事例はあまりなく，特に採食地に関する記録は少ないと考えられる．

こうした状況の中，当財団では2005年度からマガン，ヒシクイ，コハクチョウについて，宍道湖周辺で採食している場所やその選択性に関わると考えられる情報を収集する基礎的な調査を行っている．この調査で得られている結果については，平成29年度(2018年2月)の研究報告会で，特にマガンとコハクチョウを比較して紹介した．今回は，これにヒシクイを加え，昨シーズンまでのデータを追加して，特にカウント数の経年的な推移に注目しながら出雲平野における分布について紹介する．

